

Guide 3-30 論文の種類について

論文の種類について説明します。

▶ 原著論文 (Article, Journal Article, Full Paper, Research Article 等)

- ・ 論文といえば普通この原著論文のことをさす。査読制度を採用し、独創性のある最新の研究成果を伝える投稿論文のことをさす。
- ・ 学術雑誌に掲載され、著者のオリジナリティを有し、著者がその成果の所有権を持ち、原則的に未発表であることなどの学術雑誌の規定に則る形で掲載される。
- ・ 取り扱う問題が原則的に1つである（通常複数の問題は扱われない）。また目的と結論が明確である。
- ・ 結論を導くための調査・実験結果、提案する手法や方法論が客観的に有効かを評価した上で論じられる。
- ・ 論文で論じられている方法とその結果については、再現性があることが求められる。再現性とは、その手法を手順通りに再現した場合、同じ結果が得られる事が保証されている、という事である。
- ・ 論文の体裁は決められた規約に則り整えられ、厳格な査読システム (peer-review) を経て掲載される。そのため、原著論文が採録・出版されるという事は、該当分野の有識者によってその成果や有効性が認められた、という事である。

▶ 総説論文 (Review)

- ・ 総説論文とは、特定の分野やテーマに関する先行研究を集め、体系立ててまとめることで、その分野やテーマの概説や研究動向、展望を示すことを目的とする。
- ・ そのため新しい事実や成果の発表ではない。分野やテーマ全体の概要を知る事が出来る。
- ・ その分野やテーマを俯瞰して捉える事が出来るため、その分野の研究を始める上で読むべき論文の代表格となる。何が解決されていて、何が解決されていないか、の確認にもなる。

▶ レター、速報 (Letter, Communication)

- ・ 学術雑誌は投稿から掲載まで時間がかかる（厳格な査読システムによる）ため、新規性と独創性をできるだけ早く確保したい場合や、その分野の研究者に成果を早く伝えたいために用意されているのが Letter である。そのため査読期間は短い。Letter 専門の雑誌もある。
- ・ 原著論文に比べると小さい問題、現在進行形の研究成果が記載される。問題、解決方法と結果の概略、あるいは新しい問題などが論じられる。



会議録 (proceedings)

- ・ 研究成果の発表および情報交換、議論を行うことを目的として行われる会議のことを学術会議、通称、「学会」と呼びます。また会議で使われる標準言語が外国語（通常英語）である学術会議を通称「国際会議」と呼びます。
- ・ 学術会議では研究成果を発表するために事前に論文等を投稿し、会議での発表に値すると認められたものが、その論文の内容を口頭で発表します。この論文をまとめた冊子が会議録 (proceedings) と呼ばれます。
- ・ 分野によっては著名な国際会議は重要な研究発表の場とみなされるため、その会議録は、学術雑誌相当とみなされることもあります。つまり proceedings も原著論文相当の評価を受けるものもあります。



学位論文(thesis, Doctoral thesis, Dissertation)

- ・ 広義の学位論文には、卒業論文、修士論文も含まれるが通常博士論文のことを指す。
- ・ 学位論文は分野による違いが大きいが、理工学系では執筆者が自分の研究活動の総括的な内容となる。ゆえに総説(Review)論文に似ているとも言える。